

中江船橋市議 反核・護憲・平和都市宣言の実現

中江昌夫へ二人5票獲得行動―12月19日集約

船橋市は、十二月十九日に「平和都市宣言」を実施することを決定しました。動労千葉・船橋市議、中江昌夫氏が四年間訴え続けてきた「反核・護憲、平和都市宣言」の実現がかちとられました。この成果を来年四月の統一地方選における中江昌夫候補必勝へつなげよう。

様々な妨害をはねのけ実現

十二月十日、船橋市議会で一般質問にたった中江議員は「平和都市宣言」の実施を約束させました。

「宣言」は昨年六月、市議会で賛成多数で採決されたにもかかわらず市長は、「全員一致にしてほしい」という形で今日まで引きのばしてきたが、先の衆参同日選での自民圧勝を背景にした中曽根内閣の凶暴な本質が明らかになる中で中江氏の訴え、市民の願いである「平和都市宣言」はかちとられました。

全組合員が船橋全域を かけめぐる

八三年四月、船橋市議選に動労千葉組織内候補として中江昌夫氏が「反核・護憲」をかけた立候補しました。

中江選挙闘争は、まったくゼロからの出発でした。全市内を席巻するビラ入れ、駅頭街頭、ビラまき、組合から一市民にいたるまでのオルグ活動、「反核・護憲」の署名行動、映画「侵略」の上映会、市民の会を中心とした座談会など、全組合員一人ひとりが活動家となって船橋全域を駆けめぐる一大運動を展開しました。当時、誕生したばかりの中曽根内閣は「戦後政治の総決算」をかけた、日本の核武装化にむけた「不沈空母」「四海峡封鎖」発言を行うなど反動化を強めていました。

国鉄労働者に大きな力を 与えてきた

中江候補の反戦・平和の呼びかけは、船橋市民に圧倒的共感をもってむかえられ見事上位当選を果たしました。

中江氏は、市民の期待に応え、下総基地の米軍艦載機による夜間訓練使用に反対し、京葉線の騒音対策をはじめ、市民生活に密着した環境整備問題を精力的に取り組んできました。

とりわけ、中曽根の国鉄分割・民営化攻撃の嵐の中で十万人首切り攻撃にさらされている国鉄労働者に大きな力を与えてきました。動労千葉と国労の役員活動家を強制的に配転した船橋「人材活用センター」廃止にむけての抗議・激励行動の先頭にたたかいぬいてきました。

前回を上回る取り組みを

反動中曽根内閣は、国鉄法案の強行成立をもつて来年四月一日「分割・民営化」へむけた攻撃を一気に強めています。

データメキわまらない国鉄国会審議、税制改革問題などに示される国鉄労働者・人民にすべての犠牲のうえに「戦後政治の総決算」―憲法改悪・戦争への道をどうして認めることができるでしょうか。いまほど「反核・護憲をかかげる中江昌夫」を市民が求めているときはありません。

前回を上回る全組合員の取り組みで、中江選挙闘争に勝利しよう。